

## 平成25年度消防団長等幹部海外消防事情調査の実施について

### 1 目的

海外の消防に関する制度、消防活動の実態を調査するとともに、各国消防の相互理解と交流を深めることにより、海外の消防に関する見聞を広め、我が国消防の発展に寄与することを目的とする。

### 2 調査期間

平成26年1月20日（月）～平成26年1月28日（火） 7泊9日

### 3 調査地

成田→アテネ（2泊）→ナポリ（2泊）→ローマ（1泊）→イスタンブール（2泊）  
→成田

各都市の消防事情・国の消防制度等

### 4 調査経費

**330,000円（燃油サーチャージ等諸経費込）**

その他

※ シングルルームの追加料金 68,800円

※ 海外旅行保険加入希望の方は取扱い旅行業者にご相談下さい。

### 5 参加者資格

各都道府県消防協会役職員、消防団幹部及び消防職員（司令補以上）等（消防担当者を含む）の幹部等（退職者も可）及び消防関係団体役職員で健康な方。

### 6 申込み方法及び締め切り期限

別添「消防団長等幹部海外消防事情調査参加申込書」に必要事項を記入し、参加者の写真1枚(4.5cm×3.5cm)を参加申込書に貼付し、パスポートの写し(コピー)を参加申込書に添付して下さい。

参加申込書は、各都道府県消防協会でき取りまとめ、平成25年12月5日(金)までに、日本消防協会国際部宛に送付して下さい。参加者がいない場合でも文書、メールまたは電話にて回答をお願い致します。

### 7 経費の支払い

参加申込書が提出されますと、取扱旅行業者より請求書が送付されますので、指定された期日までに振り込んで下さい。

### 8 職務の取扱い

事情調査の性格上、各任命権者においてできるだけ出張扱いとされるよう、ご配慮をお願い致します。

## 9 宿泊・日本国内航空券の斡旋

成田前、後泊 一人部屋1泊7,000円(税、朝食、サービス料込み)

日本国内航空運賃(往復)

伊丹・中部等／成田往復 20,000円

福岡／成田往復 25,000円

札幌／成田往復 28,000円

なお、斡旋を希望された方には、取扱旅行業者より連絡があります。

## 10 キャンセルの場合の取消料

出発日の35日前より～10日前迄	旅行費用の20%
出発日の9日前より～3日前迄	旅行費用の20%
2日目以後	旅行費用の50%
当日	旅行費用の全額

## 11 その他

- (1) 調査行程等については、別紙を参照して下さい。
- (2) 特別な事情により調査行程等に変更がある場合は、別途お知らせいたします。
- (3) 健康の優れない方は事前に医師にご相談のうえ、お申し込み下さい。

## 12 取扱旅行業者

株式会社日本クリエイティブ  
総合旅行業務取扱管理者 山口 多喜廣

〒105-0001  
東京都港区虎ノ門2-9-16  
日本消防会館3階  
TEL: 03-3501-6311  
FAX: 03-3501-6301

## 13 問い合わせ先

財団法人 日本消防協会  
国際部 担当 福地  
TEL 03-3503-3054  
FAX 03-3503-1480  
E-mail : [fukuchi@nissho.or.jp](mailto:fukuchi@nissho.or.jp)

- ※ 申込書及び行程に関する詳しい情報については、後日に日本消防協会のホームページ(<http://www.nissho.jp>)にて掲載予定です。

## 消防団長等幹部海外視察日程表

日数	月 日 (曜日)	都市名	現地時間	交通機関	摘 要
1	平成 26 年 1 月 20 日 (月)	成 田 発 イスタンブール着 イスタンブール発 ア テ ネ 着	1 2 : 5 5 1 8 : 1 0 1 9 : 1 5 2 0 : 4 0	T K 0 5 1  T K 1 8 4 3	空路、イスタンブール経由アテネへ [所要時間：12 時間 15 分/時差-7 時間]  空路、アテネへ [所要時間：1 時間 25 分/時差なし] 到着後、ホテルへ  [アテネ泊]
2	1 月 21 日 (火)	ア テ ネ			消防視察、ほか、市内視察  [アテネ泊]
3	1 月 22 日 (水)	ア テ ネ 発 ロ ー マ 着 ロ ー マ 発 ナ ポ リ 着	0 8 : 3 0 1 2 : 4 0 1 3 : 4 5 1 5 : 1 0 1 6 : 0 5	A Z 7 1 9  A Z 1 2 6 9	ホテル出発、市内視察 空路、ローマ経由ナポリへ [所要時間：2 時間 5 分/時差-1 時間]  空路、ナポリへ [所要時間：55 分/時差なし] 時間の余裕があれば、1 8 : 0 0 まで 短い市内視察  [ナポリ泊]
4	1 月 23 日 (木)	ナ ポ リ			消防視察 ナポリ周辺視察  [ナポリ泊]
5	1 月 24 日 (金)	ナ ポ リ 発 ロ ー マ 着	午 前	専 用 車	陸路、ローマへ 途中、ポンペイ遺跡視察 ローマ着後、市内視察  [ローマ泊]
6	1 月 25 日 (土)	ロ ー マ 発 イスタンブール着	1 4 : 3 5 1 8 : 0 5	T K 1 8 6 6	市内視察 空路、イスタンブールへ [所要時間：2 時間 30 分/時差+1 時間]  [イスタンブール泊]
7	1 月 26 日 (日)	イスタンブール	終 日		消防視察、ほか、市内視察  [イスタンブール泊]
8	1 月 27 日 (月)	イスタンブール発	1 7 : 1 5	T K 0 5 0	出発まで視察 空路、成田へ [所要時間：11 時間 15 分/時差+7 時間]  [機内泊]
9	1 月 28 日 (火)	成 田 着	1 1 : 3 0		到着後、解散

当日程は諸事情等で変更になる場合があります。TK：トルコ航空、AZ：アリタリア航空

※ 詳しい視察の日程については後日ご案内いたします。

## 消防視察のほか、魅力あふれる訪問先の名所は下記のとおり

ほぼ旅程順に記載しております(すべてイメージです)

<p>パルテノン神殿(アテネ)</p>	<p>エレクトイオン神殿(アテネ)</p>	<p>パナシナイコスタジアム(アテネ)</p>
 <p>アクロポリスの丘に聳えるアテネの守護神アテナイ神を祀った神殿です。紀元前 432 年に 15 年の歳月をかけて完成し、ドーリア式建築となっています。</p> <p>写真提供:ギリシャ政府観光局</p>	 <p>紀元前 406 年に完成したイオニア式建築の神殿です。かつてはアテナの女神像が安置されておりアクロポリスのなかで最も神聖な場所とされてきました。</p> <p>写真提供:ギリシャ政府観光局</p>	 <p>アテネにある第一回近代オリンピックの競技場です。紀元前三世紀に建築され、改築、大理石による再建を繰り返し今日に至っています。</p> <p>写真提供:ギリシャ政府観光局</p>
<p>王宮(ナポリ)</p>	<p>ヌオーヴォ城(ナポリ)</p>	<p>ポンペイ遺跡(ポンペイ)</p>
 <p>17 世紀にスペイン国王を迎えるために着工されましたが、その後ブルボン家の王宮として 1753 年に改築・拡張されました。現在内部は、王宮歴史的住居博物館になっており、18 世紀の豪華な室内装飾で彩られています。</p> <p>写真提供:イタリア政府観光局</p>	 <p>1284 年アンジュー家の新しい城としてカルロ 1 世により建設されましたが災害により破壊され、その後 1443 年にアルフォンソ 1 世により再建されました。5 本の塔で構成され、入り口に凱旋門があり、内部には市立美術館があります。</p> <p>写真提供:イタリア政府観光局</p>	 <p>世界遺産に登録されている、ナポリ近郊の古代都市です。紀元 79 年にベスビオ火山の大噴火により一瞬により姿を消しましたが、18 世紀に発掘が開始され、フレスコ画やコインなどが残っておりローマ人達の高い文化水準が推測されます。</p> <p>写真提供:イタリア政府観光局</p>
<p>トレビの泉(ローマ)</p>	<p>真実の口(ローマ)</p>	<p>コロッセオ(ローマ)</p>
 <p>ローマ中心部付近にある噴水です。ローマ神話の神々の像が配置されており、背後にはポーリ宮殿が建っています。後ろ向きにコインを投げ入れると願いが叶うという言い伝えがあります。</p> <p>写真提供:イタリア政府観光局</p>	 <p>サンタマリアインコスメディアンの外壁にある石造の円盤です。海神トリトネの浮き彫りが施されています。偽りの心をもつ人が海神の口に手を入れると抜けなくなる、または切り落とされるという伝説があります。</p> <p>写真提供:イタリア政府観光局</p>	 <p>ローマに残る、古代の円形闘技場です。西暦 70 年代にウェスパシアヌス帝が起工し、長径 188 メートル、高さ 48.56 メートル、4 階造りで、約 5 万人の観衆を収容でき、猛獣と剣闘士、または剣闘士同士の壮絶な戦いが見世物にされました。</p> <p>写真提供:イタリア政府観光局</p>

<p><b>サンピエトロ大聖堂(ヴァチカン市国)</b></p>	<p><b>ブルーモスク(イスタンブール)</b></p>	<p><b>トプカプ宮殿(イスタンブール)</b></p>
 <p>カトリック教会の総本山です。使徒ペトロの墓所があったところに建立されたとされ、キリスト教の教会建築としては世界最大級の大きさを誇ります。</p> <p>写真提供:イタリア政府観光局</p>	 <p>アフメット 1 世の命を受け、メフメット・アーの設計により 1616 年に完成しました。6 本のミナレットを備えた重厚なその姿はオスマン朝建築の傑作のひとつと言われており、内壁に飾られている 2 万枚以上のイズニックタイルの鮮やかな青色がその由来となっています。</p> <p>写真提供:トルコ政府観光局</p>	 <p>15 世紀中頃から 19 世紀中頃までオスマン帝国時代の君主(スルタン)の居城とされていた宮殿です。現在は宝物館として公開されており、世界最大のダイヤモンドやエメラルドが収蔵されています。</p> <p>写真提供:トルコ政府観光局</p>
<p><b>ガラタ塔 (イスタンブール)</b></p>	<p><b>ボスボラス海峡 (イスタンブール)</b></p>	<p><b>ドルマバフチェ宮殿 (イスタンブール)</b></p>
 <p>イスタンブールのカラキョイ地区にある石造りの塔です。9 階建てで、高さは 66.9 メートルで 5 世紀から 6 世紀頃に灯台があったとされ、のちに火災で焼失し、14 世紀にジェノバ人が監視塔に改築しました。オスマン帝国時代には監獄や天文台として利用されましたが、現在では市内を一望できる展望台となっています。</p> <p>写真提供:トルコ政府観光局</p>	 <p>イスタンブールのヨーロッパ部分とアジア部分を隔てる海峡です。南北に細長く、北は黒海、南はマルマラ海で、マルマラ海とエーゲ海を繋ぐダーダネルス海峡とあわせて黒海と地中海を結ぶ海上交通の要衝をなしています。</p> <p>写真提供:トルコ政府観光局</p>	 <p>イスタンブールの新市街にある宮殿です。トルコ語で「埋められた庭」を意味し、ボスボラス海峡に面する埋め立て地に位置することに由来します。1843 年から 1856 年にかけてスルタンアブドゥル＝メジド 1 世により建造され、現在は迎賓館として利用されています。</p> <p>写真提供:トルコ政府観光局</p>